

北見工業大学学報

第 224 号 (2007 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 19 年度秋季大学院入学式举行……………	3
会 議	第 43 回国立工業大学長懇談会を開催……………	3
	地域共同研究センター第2回産学官連携推進員・協力員合同会議、 紋別にて開催……………	4
研 究 助 成	平成 20 年度科学研究費補助金申請件数一覧(学科等別)……………	5
	平成 19 年度科学研究費補助金交付決定(追加採択分)……………	6
	(社)ノーステック財団平成 19 年度「研究開発助成事業」採択決定……………	6
	平成 19 年度共同研究の受入状況……………	7
	平成 19 年度受託研究の受入状況……………	7
	平成 19 年度奨学寄附金受入状況……………	7
受 賞	菅原宣義准教授澁澤賞を受賞……………	8
	情報システム工学専攻2年 木村祐司君、国際会議で Best Student Paper Awardを受賞……………	9
国 際 交 流	JICA 地域提案型研修「寒冷地の土木開発」実施……………	10
	田村副学長と山岸国際交流センター長、韓国チャンウォン大学にて講演……………	11



諸	報	ISO14001 登録継続承認	12
		第二講義棟耐震補強工事の完成	13
		研究交流ワークショップを開催	14
		たばこのポイ捨て防止パトロール	15
		第3回交通安全講習会及び冬道安全運転講習を実施	16
		消防訓練を実施	17
		平成 19 年度国立大学法人等施設担当職員研修会開催	18
		北見クリーン作戦を実施	19
		キャンパス公開ツアーを実施	20
		父母懇談会(秋季・北見、大阪)を開催	21
		大学機関別認証評価訪問調査を受審	22
		北海道新聞社との提携・協力に関する基本合意書に調印	22
		研究シーズ発表会「北見工業大学の研究最前線」の開催	23
		平成 19 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式挙行	24
		健康チェック及び栄養士による栄養相談を実施	25
目	誌	10 月・11 月	26



= 入学式 =

平成 19 年度秋季大学院入学式挙行

(総務課)

平成 19 年度秋季大学院入学式が、10 月 1 日(月)午前 10 時から本学の第1会議室で行われました。

学長から、留学生並びに社会人を含む7人の入学が許可された後、学長式辞、役職員等の紹介が行われ、式は無事終了しました。

入学者数は次のとおりです。

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械システム工学専攻	1
電気電子工学専攻	1
情報システム工学専攻	1
土木開発工学専攻	1
合計	4

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
システム工学専攻	3



式辞を述べる常本学長



学長より入学許可される入学生

= 会議 =

第 43 回国立工業大学長懇談会を開催

(総務課)

10月12日(金)、全国の工業系の13大学で構成する国立工業大学長懇談会を北見東急インで開催しました。

今回は、文部科学省高等教育局私学部長 磯田文雄氏を招き、「私学行政から見た国立大学」と題して講演が行われました。講演後は、私立大学の情報公開の透明性の提言など活発な意見交換の場となりました。

また、議事では、「骨太方針 2007 を踏まえた今後の国立大学のあり方」や「大学あるいは大学院における教育組織・研究組織のあり方」などについて協議し、各大学のそれぞれの立場から現在の状況や取組みの報告があり、予定時間を越える大変有意義な会議となりました。

= 入学式 =

平成 19 年度秋季大学院入学式挙行

(総務課)

平成 19 年度秋季大学院入学式が、10 月 1 日(月)午前 10 時から本学の第1会議室で行われました。

学長から、留学生並びに社会人を含む7人の入学が許可された後、学長式辞、役職員等の紹介が行われ、式は無事終了しました。

入学者数は次のとおりです。

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械システム工学専攻	1
電気電子工学専攻	1
情報システム工学専攻	1
土木開発工学専攻	1
合計	4

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
システム工学専攻	3



式辞を述べる常本学長



学長より入学許可される入学生

= 会議 =

第 43 回国立工業大学長懇談会を開催

(総務課)

10 月 12 日(金)、全国の工業系の 13 大学で構成する国立工業大学長懇談会を北見東急インで開催しました。

今回は、文部科学省高等教育局私学部長 磯田文雄氏を招き、「私学行政から見た国立大学」と題して講演が行われました。講演後は、私立大学の情報公開の透明性の提言など活発な意見交換の場となりました。

また、議事では、「骨太方針 2007 を踏まえた今後の国立大学のあり方」や「大学あるいは大学院における教育組織・研究組織のあり方」などについて協議し、各大学のそれぞれの立場から現在の状況や取組みの報告があり、予定時間を越える大変有意義な会議となりました。

地域共同研究センター第2回産学官連携推進員・協力員合同会議、 紋別にて開催

(研究協力課)

10月22日(月)、今年度2回目となる地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を紋別市文化会館において開催しました。

当該合同会議は、オホーツク圏の地域活性化を目的として、毎年3回程度本学において開催されていましたが、今年度より網走・紋別・北見の3市において巡回開催することとなり、網走市開催の第1回目(H19.8.23)に続き、紋別での第2回目の開催となりました。

本学関係者を含め27名の参加となった今回は、会議に先立ち実施したアンケート調査の、各自治体等の抱える諸問題、実情、今後の課題、大学への要望、提供を希望する情報等を取りまとめ、問題解決への情報交換・検討へと

入りました。

本学からは、高橋地域共同研究センター長、鞆師教授、有田准教授、二俣コーディネーター、内島コーディネーターから北見工業大学に関わる情報の提供・説明及び本学事業内容の紹介がなされました。本学地域共同研究センターに設置された「中小企業基盤整備機構北海道支部北見オフィス」からの地域資源活用事業認定に関する説明では多くの質問が寄せられ、北海道中小企業総合支援センターからは、「新連携」事業の説明と進捗状況と採択の実績について説明がありました。活発な意見交換があり、次回は1月に北見で開催することとなりました。



高橋地域共同研究センター長の挨拶



鞆師教授の説明



有田准教授の説明



会議風景

= 研究助成 =

平成20年度 科学研究費補助金申請件数一覧(学科等別)

(研究協力課)

学科等 研究種目等	機械システム		電気電子		情報システム		化学システム		機能材料		土木開発		共通講座		センター等		合計	
	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円
特別推進研究																	0	0
特定領域研究 (計画)	(1) 1	12,200 12,200															(1) 1	12,200 12,200
特定領域研究 (公募)			1	3,000					1	2,860							2	5,860
基盤研究(S)																	0	0
基盤研究(A) (一般)	1	27,610							(1) 1	5,300 5,300	(1) 2	8,400 33,100			(1) 1	4,600 4,600	(3) 5	18,300 70,610
基盤研究(A) (海外学術調査)																	0	0
基盤研究(B) (一般)	4	26,734	1	5,200	(1) 2	4,000 10,555	1	4,750	2	22,685	(2) 7	6,500 43,067					(3) 17	10,500 112,991
基盤研究(B) (海外学術調査)							1	11,200			1	7,200			1	7,654	3	26,054
基盤研究(C) (一般)	8	25,535	(2) 14	1,100 20,954	(3) 9	2,800 15,586	(3) 11	2,500 23,850	3	10,166	(3) 10	3,100 17,555			(1) 2	2,000 5,300	(12) 61	11,500 124,991
萌芽研究	(1) 8	500 17,527			(1) 11	600 21,596			(1) 5	600 10,345			(1) 6	600 11,862			(3) 6	1,700 15,750
若手研究(A)									(1) 1	3,800 3,800							(1) 1	3,800 3,800
若手研究(B)	(1) 2	500 3,270			(1) 2	600 1,510							(2) 2	700 700	(1) 3	1,000 2,430	(5) 18	2,800 31,863
計	(3) 24	13,200 112,876	(2) 19	1,100 37,991	(6) 24	8,000 49,247	(3) 18	2,500 50,145	(3) 18	9,700 65,828	(6) 30	18,000 129,490	(2) 11	700 13,940	(3) 8	7,600 21,984	(28) 152	60,800 481,501

※備考 1 上段()内は継続課題の内定数で内数 2 金額は平成20年度申請(内定)額

平成 19 年度 科学研究費補助金交付決定（追加採択分）

（研究協力課）

○基盤研究(C)一般

所 属	職名	氏 名	研究課題	交付内定額	新規	継続
情報システム 工学科	准教授	渡辺 文彦	超幾何積分の新しい一般化 の研究、モジュラー性の観点 から	800 千円 (平成 20 年度 800 千円) (平成 21 年度 800 千円)	○	

※別途、間接経費 240 千円配分

（社）ノーステック財団 平成 19 年度「研究開発助成事業」採択決定

（研究協力課）

所 属	職名	氏 名	研究課題	交付金額
機械システム 工学科	准教授	松村 昌典	住環境を向上させる省エネ型換気用サイクロン 給気フードの開発	2,000 千円
化学システム 工学科	助 教	多田 清志	亜臨界水処理を用いたアスタキサンチン生産プ ロセスの開発	400 千円

平成19年度共同研究の受入状況

平成19年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
機械システム工学科	教授	佐々木 正史	フラット型ソーラーサーマルコレクターの集熱性能向上研究	(株)ダイナックス
情報システム工学科	講師	後藤文太郎	オホーツクブランド形成およびインターネットを活用した販売促進に関連した活動の解析と改善に関する研究	(財)オホーツク地域振興機構
機械システム工学科	准教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツセレクションシステムの開発	(有)キャンブダンガリー
機器分析センター	准教授	南 尚嗣	菜種圃場の土質に関する調査研究	(財)オホーツク地域振興機構
国際交流センター	教授	山岸 喬	伝統医学とバイオメディカル技術による生活改善食品の開発	(独) 科学技術振興機構
機械システム工学科	准教授	山田 貴延	前立腺切除手術における術前術後の排尿速度に関する研究	古屋病院
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	送電線設備の落水対策技術に関する研究 (その3)	東京電力(株)技術開発研究所
土木開発工学科	教授	川村 彰	顧客満足度 (CS) を指標とした路面評価システムの構築に関する研究	(株)ニュージェック

平成19年度累計 87件

平成19年度受託研究の受入状況

平成19年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 円
機能材料工学科	准教授	伊藤 英信	水銀鉱業技術を活用したハイ乾電池由来構成の低コスト脱Mg材の開発	(財)北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団)	477,750
土木開発工学科	教授	中山 恵介	平成19年度運河網に適用可能な数値シミュレーションモデルの開発業務	国土交通省国土技術政策総合研究所	5,554,500

平成19年度累計 28件

平成19年度奨学寄附金受入状況

平成19年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
機械システム工学科	助教	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人日本VOC測定協会	300,000
保健管理センター	教授	本田 明	保健管理センターにおける診療研究のため	ジブラルタ生命北見支社	5,000
共通講座	教授	鈴木 一央	体育・スポーツに関する研究のため	鈴木 一央	300,000
土木開発工学科	准教授	高橋 清	交通工学に関する研究助成	(株)ドーコン	300,000
地域共同研究センター	センター長	高橋 修平	工学研究のため	松谷建設(株)	100,000
電気電子工学科	教授	平山 浩一	「誘電率測定法に関する研究」にたいする研究助成	(株)関東電子応用開発	300,000
土木開発工学科	准教授	高橋 清	今後の地域ニーズを考慮した道路整備推進を見据えた道路利用者の移動行動選択における意思決定要素の抽出検討に向け、学術研究機関によるレベルの高い調査能力が必要不可欠と考えられる道路利用者のニーズ調査手法の確立・分析の実施	日本工営(株)札幌支店	1,050,000
土木開発工学科	教授	鮎田 耕一	奨学研究費	太平洋マテリアル(株)	200,000

平成19年度累計 57件

= 受賞 =

菅原宣義准教授 澁澤賞を受賞

(電気電子工学科)

このたび、電気電子工学科准教授菅原宣義氏が、社団法人日本電気協会より「第 52 回澁澤賞」を贈呈されました。

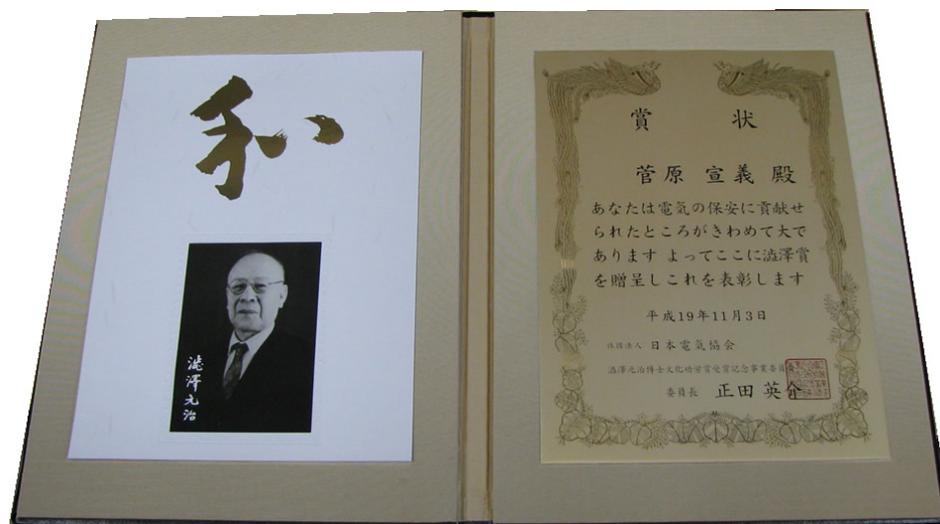
澁澤賞は、故澁澤元治博士が昭和 30 年に文化功労者として表彰を受けられた栄誉を記念するため、昭和 31 年に設けられたものです。わが国の電気保安行政の礎を築いた博士の崇高な志を受け継ぎ、広く電気保安に優れた業績を上げた方々に毎年贈られており、民間で唯一の電気保安関係表彰として各界より認められている権威ある賞で、毎年 11 月3日の文化の日を受賞者の発表が行われます。

菅原准教授は、酸素治療タンク内での電気火花による火災原因の研究、沿面放電の基礎研究をし、1983 年頃からは着氷雪がいし連の絶縁に関する調査・研究を行ってきました。本学では、着氷雪がいし連の実験装置を構築、その後の各電力会社等との共同研究を通して、電気設備の着氷雪問題に対する観測・評価システムを開発すると共に、多くの研究成果を電気学会や国際学会に発表してきました。また、



澁澤賞を受賞した菅原准教授

北海道電力所有の落雷データ 10 年間分を解析し学会で発表するなど、自然環境下における電気設備問題に関する研究を続け、その専門性は国内外の研究分野で高く評価されています。このような長年に渡る功績が評価され、今回の受賞となりました。



第 52 回澁澤賞の賞状

情報システム工学専攻2年 木村祐司君、国際会議で Best Student Paper Awardを受賞

(情報システム工学科)

博士前期課程情報システム工学専攻の木村祐司君（柴田研究室）が2007年10月にオーストラリアのシドニーで開催された国際会議（IEEE主催 ISCIT2007 第7回通信と情報技術に関する国際シンポジウム）にて発表しました論文に対して、Best Student Paper Award を授与されました。

受賞論文は、Blind Detection of Dual-Rate DS-CDMA Signals over time-Variant Channels（共著者：柴田孝次、酒井考和、中垣 淳）です。

この論文は、異なる情報速度を有するデータをスペクトラム拡散技術により伝送した場合における信号検出方法の研究結果を述べたもので、時間的に特性が変動する通信路の出力から、送信された信号（情報）をブラインドに推定する新しい方法を示しています。

今回のシンポジウムでの発表論文数は297件で、日本、中国、アメリカ合衆国、英国、フランス、オーストラリア、韓国、タイ、マレーシア、フィンランド、イタリア、インドなど、世界32カ国からの参加がありました。このシンポジウムにおいて、Best Student Paper Awardを受賞したのは、木村君とAustralian National Universityの学生2人です。

主催学会のIEEEはアメリカ合衆国に本部がある、情報・電気・電子関連分野の学会で、世界160の国に37万人以上の会員を有し、8万人以上の学生会員を含む非営利団体です。IEEEの名称は、組織の当初の成り立ちから「電気電子技術者の組織」を意味しますが、

今日では、非常に多くの関連技術分野において、その活動範囲が広がっております。

受賞論文を発表したISCITは、現在IEEEが主催で日本の電子情報通信学会IEICEとタイの情報通信学会ECITが共催の、通信と情報技術に関する国際会議です。ISCITは、通信と情報技術の理論と応用の進展を目指して開催されることになった学会で、これまでタイ、日本、中国、オーストラリアで開催されてきました。参加研究者の分野は通信とネットワーク、信号処理、VLSI、回路とシステム、コンピュータと情報システムとなっております。

論文集は、2004年からIEEE Xploreに掲載されています。



Best Student Paper Awardを受賞した
木村祐司君

= 国際交流 =

JICA 地域提案型研修「寒冷地の土木開発」実施

(研究協力課)

本学の山岸国際交流センター長が議長となっている北見国際技術協力推進会議が JICA と連携し、開発途上地域の経済及び社会の発展に貢献するため、10 月 15 日(月)から 11 月 4 日(日)まで JICA 地域提案型研修「寒冷地の土木開発」を実施し、キルギスのカラコル市副市長の Djanybekov Akylbek Kadyrovich 氏と交通情報省道路管理局主任技術者の Choibekov Bazarbek Asanovich 氏の 2 名が研修生として参加しました。

このプログラムは、平成 12 年度から続けて行われており、平成 12 年度はキルギス、カ

ザフスタン、ウズベキスタンから、平成 13 年度はキルギス、カザフスタンから、平成 14 年度からはキルギスの研修生を受け入れており、今回は本学の 11 名の教員が講師として、寒冷地の土木開発に関する講義を実施しました。

なお、このプログラムは、寒冷地である北見市の特性を生かした「寒冷地の土木開発」コースとして継続していく予定です。



研修生の Djanybekov Akylbek Kadyrovich 氏(前列中央)と Choibekov Bazarbek Asanovich 氏(前列中央右)及び土木開発工学科教員と北見国際技術協力推進会議関係者

田村副学長と山岸国際交流センター長、韓国チャンウォン大学にて講演

(研究協力課)

本学と今年8月に国際交流協定を締結した韓国チャンウォン大学から、田村副学長(情報・国際担当)と山岸国際交流センター長が招待を受け、11月29日(木)から12月1日(土)の3日間、同大学を訪問して特別講演を行いました。

山岸先生の講演「食と健康」にはチャンウォン大学の生涯教育プログラムを基本として集まった主婦を中心とした50名ほどの聴衆が参加し、日本・韓国始め世界各国の死亡要因、原因となる食品成分、健康に良い食品などから、タマネギやハマナスにバイオ技術を応用した研究開発紹介に至るまで熱心に聞き入っていました。講演終了後も質問が続き、韓国でも健

康に対する関心が非常に高いことが分かりました。

また、田村副学長の講演「Power System and Wind Power Generation in Japan」には工学部電気電子科2年生60名ほどが参加し、日本の電力システムの構成、地球温暖化の要因と自然エネルギーの重要性、風力発電の状況等に関する説明に熱心に聞き入っていました。こちらにも盛んに質問が出され、最後にはするどい質問に田村副学長もたじたじとなる等、いずれの講演も成功裏に終わりました。これを機会に今後2大学間の国際交流がますます盛んになることが期待されます。



←山岸センター長の講演。
左は通訳のキム教授



田村副学長の講演→

= 諸報 =

ISO14001 登録継続承認

(施設課)

9月26日(水)・27日(木)の2日間、国際的な環境マネジメントシステム規格「ISO14001」の維持審査が実施されました。

審査登録機関から審査員1名が本学を訪れ、審査員と対象部門担当者全員による初回会議の後、学生や教職員が取り組んでいる環境マネジメントシステムの実施状況等について審査が行われました。

本学では、「自然と調和するテクノロジーの発展を目指す大学」をスローガンに環境方針を策定し、教職員・学生が一体となって環境対策への取組を推進してきました。

今回は、3月にISO14001の認証を取得してから初めての維持審査となりましたが、11月14日付で環境マネジメントシステムの登録継続が承認されました。



維持審査の講評を聞く常本学長(一番左)と大島理事(左から2人目)

第二講義棟耐震補強工事の完成

(施設課)

6月26日から耐震補強工事が行われていた第二講義棟が9月28日に完成し、後期授業の始まる10月1日より利用できるようになりました。

耐震補強の内容としては、南面外壁コーナーと中央部の窓に鉄筋コンクリートの耐震壁を増設し、大講義室側では天井内に水平鉄骨ブレスを設け耐震性能を向上させました。また、通風性の悪かったサッシも開放できる引き違いとし、夏場の直射日光に配慮した熱線反射複層ガラスとルーバーを設け、大講義室にはエアコンも設置され快適な環境が整いました。また、バリアフリー対策として身障者トイレの設置及びホー

ルのスロープ化、外部のインターロッキングブロックの拡張がなされ、昨年度設置されたエレベータ及び自動ドアと合わせ、より一層の安全安心な教育研究環境が整いました。



耐震改修後の外観



新設された身障者トイレ

研究交流ワークショップを開催

(研究協力課)

10月9日(火)、総合研究棟多目的講義室において、今年6月に本学と協定を結んだ米国アラスカ大学フェアバンクス校とのワークショップが開催されました。

ワークショップでは、まず午前中に両校の研究内容等の紹介が行われ、午後からは極地環境変動と寒冷地社会基盤の二つのセッ

ションに分かれて研究発表が行われました。

本学とアラスカ大学は寒冷地工学の分野で共同研究を推進しており、このワークショップをきっかけとして、共同研究だけでなく大学院生の交流も盛んになることが期待されます。



参加者による記念撮影

たばこのポイ捨て防止パトロール

(施設課)

10月10日(水)から12日(金)の3日間、施設環境委員会委員及び2、3年次クラス担任の教員による「たばこのポイ捨て防止パトロール」と銘打った環境美化活動を実施しました。

たばこのポイ捨てにより構内に吸い殻が目立つことから、喫煙者にマナーを徹底するよう呼びかけるために構内を巡回し、通行者には歩行中禁煙及びポイ捨て禁止を訴えるビラを手渡し、また歩行中に喫煙している者には指導を行いました。

初日にパトロールに加わった学長からは「非喫煙者の皆さんも喫煙者のマナー違反を見かけたら一言声をかけ、きれいなキャンパス作りを進めていただきたい」と環境意識の向上への期待が述べられました。

今後、大学生協に協力を依頼し、たばこを販売する際に、今回のキャンペーンで配ったビラを渡してもらい、引き続きマナーの徹底を呼びかけることとしています。



構内を巡回する常本学長(右)と大島理事(左)



ビラを手渡し歩行中禁煙を呼びかける教員

第3回交通安全講習会及び冬道安全運転講習を実施

(学生支援課)

10月11日(木)に学生・教職員を対象とする今年度3回目の交通安全講習会が実施され、424名が参加しました。今回は講師に北見警察署交通課長の平島一彦氏を迎え、飲酒運転に対する罰則の強化等道路交通法の改正内容や、冬道の安全運転のための注意点について詳細な解説がありました。学生は、時折、講師の話にうなずきながら、安全運転に対する意識を新たにした様子でした。

また、10月24日(水)に、昨年実施し好評だった冬道安全運転講習が、北見運転免許試験場で開催され、10名の学生が参加しました。本講習は、学科講習と実際に冬道の路面の危険性を特設コースの走行を通じて疑似体験することができる技術講習の2つのメニューで構成されています。今回は冬道運転歴の浅い学生の参加が多かったにも関わらず、参加者は巧みなハンドルさばきを見せていました。中には、ここぞとばかりに身をもって冬道の危険を体感しようと、わだち間の移動走行時や、つるつる路面上での急ブレーキ時に勢い余って車を一回転させる学生もいました。



講師の平島北見警察署交通課長



冬道安全運転講習の様子

消防訓練を実施

(施設課)

10月17日(水)午後3時から消防訓練を実施しました。

今回は、機械システム工学科2号棟3階から出火という想定で、通報・初期消火・避難救助の総合訓練を行いました。

当日は小雨が降り、当初予定していた梯子車による避難訓練を中止するなど一部縮小しての訓練となりました。

消火訓練中、普段取り扱わない消防設備の取扱いにとまどう場面もみられましたが、全員真剣に取り組み、各班のそれぞれの役割にそった速やかな行動で訓練にあたりました。

その後、機械システム工学科2号棟前で消防署員による消火器の使用説明を受けた後、消火器を使い、火元と想定した的をねらう消火訓練を行いました。

訓練の終わりには北見消防署副所長から、自衛消防隊の役割分担がうまく機能していたという講評及び、火の取扱いに



屋内消火栓を使つての消火訓練

対する注意喚起がありました。

最後に学長から、「火事は夜や人のいないときに起きるものです。その場合はそこにいる人で対処しなければならない」と火災に対する日頃の心構えについて訓示があり、午後3時24分、予定より早く消防訓練を無事終了することができました。



消火器を使つての消火訓練

平成 19 年度国立大学法人等施設担当職員研修会開催

(施 設 課)

平成 19 年度国立大学法人等施設担当職員研修会が去る 10 月 18 日(木)・19 日(金)の両日、本学を当番大学として開催されました。

本研修会は、道内の 7 国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構の 4 工業高等専門学校における施設関係業務の共通の諸問題を討議し、併せて施設担当職員の知識、技術、技能の交流を図り、もって施設関係業務の円滑な運営に資することを目的として道内 7 国立大学法人による持ち回り開催で行われ

ているもので、本年度は本学が当番大学となったものです。

研修会では本学の理事・副学長であり、建設部門及び総合技術監理部門の技術士の資格を持つ大島教授に「施設整備に関わる二つの話題－総合評価落札方式・リスクマネジメント」と題した講義をいただいたほか、各大学等から提出された討議テーマを基にグループ討議等を行い、16 名の参加者により活発な意見交換が行われました。



特別講義を行う大島理事(左)



グループに分かれて討議をする受講生

北見クリーン作戦を実施

(施設課)

10月19日(金)、学生と教職員が一体となって行う環境美化活動の一環として、「北見クリーン作戦」に参加し、大学敷地周辺道路の清掃活動を実施しました。

「北見クリーン作戦」とは、北見市内の地域住民や関係団体、行政等が一体となって、空き缶、たばこの吸い殻等の散乱防止と資源リサイクルを目的として啓発、清掃、回収再利用等を行う活動で、ISO14001を取得し全学的に環境意識が

高まっている本学も、今年度参加しました。

当日は、学校祭前日で休講となっていました。70名以上の学生と教職員が集まり、大学祭に訪れる市民をきれいな環境で迎えらるよう約1時間にわたって清掃に汗を流しました。今回の清掃活動により、参加者の環境美化活動への意識と理解が高まりました。



集まった学生に挨拶をする
大島理事



ゴミ拾いに汗を流す学生

キャンパス公開ツアーを実施

(企画広報課)

10月20日(土)、21日(日)に開催された第45回大学祭にあわせ、キャンパス公開ツアーが実施されました。

本ツアーは、普段、学外の方が目にする機会の少ない本学で行われている研究の内容を、やさしく楽しく紹介するものです。

「QVICで超立体視」、「ロボコンデモンストレーション」、「エアコンの省エネ運転とは?」、「光学ワンダーランド」、「高分子の不思議な構造“球晶”を見よう!」、「化学で遊ぼう!!」、「あの物質はどうやってつくるの? 液晶はこうやっ

て作る!」、「波による物の移動」と地球自転の効果」、「サーモグラフィーで見る熱の世界」の9つの実験テーマが設けられ、スタンプラリー方式で、参加者に自由に研究室を訪れていただきました。

学内の端から端まで全ての実験テーマを全て回り、9つのスタンプが並んだカードを提出した人も多くいました。スタンプカードを提出してくれた人には、抽選により記念品が贈られました。

ロボコンで活躍したロボットのデモンストレーション風景→



←回転するテーブルの上で地球の自転の効果を体験

父母懇談会（秋季・北見、大阪）を開催

（学生支援課）

毎年開催している「父母懇談会(秋季)」を、北見会場は10月20日(土)本学を会場として、大阪会場は11月10日(土)大阪府私学教育文化会館を会場として、外国人留学生及び大学院博士後期課程を除く全学生の父母を対象としてそれぞれ実施しました。

北見会場には、118組174名の父母が参加し、全体説明会において、常本学長からは、「本学の使命とその特色について」、小林副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、学生後援会長からは、後援会の活動状況が報告されました。その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職問題等について質問が出され熱心にやりとりが交わされました。

今年は、例年6月に開催する大学祭が麻疹

(はしか)の影響で延期となったため、父母懇談会に併せて開催しました。また、全体説明会会場入口で北見工業大学ブランド商品「雪まりも」の販売を行い、父母からは大変好評を博しました。

大阪会場には、84組111名の父母が参加し、全体説明会において、常本学長、小林副学長からの説明の後、同窓会関西支部長から同窓会の活動状況が報告されました。

全体説明会の後、個別面談までの待ち時間には、学長、副学長により、父母との質疑応答の時間が設けられ、修学に関する内容や学生をとりまく生活環境への質問、学生が就職をするにあたって必要となるであろう基本事項や情報収集等、活発な質疑応答が行われました。



全体説明会の様子(北見)



全体説明会の様子(大阪)

大学機関別認証評価訪問調査を受審

(企画広報課)

本学は、本年度実施する独立行政法人大学評価・学位授与機構の大学機関別認証評価に申請し、去る11月12日(月)から11月13日(火)の2日間にわたり訪問調査を受審しました。

大学機関別認証評価は、7年以内の期間ごとに認証評価を受審することが義務付けられており、本学は今年度受審することとしたものです。

訪問調査の第1日目は、学長、理事、副学長、事務局長等大学責任者との面談に始まり、午後からは、教育現場・学習環境の状況調査、一般教職員、卒業・修了生との面談が行われました。第2日目は、大学責任者への訪問調査結果の説明及び意見聴取が行われました。



面談をうける本学責任者

これら訪問調査の結果は、6月末に本学が提出した自己評価書による書面調査結果と併せて総合評価が行われ、最終的な評価結果は、来年3月に確定し公表される予定となっています。

北海道新聞社との提携・協力に関する基本合意書に調印

(企画広報課)

11月15日(木)本学において、北海道新聞社との提携・協力に関する基本合意書の調印式が行われました。本提携・協力は「オホーツク

人と環境プロジェクト」と称し、本学が有する最先端の研究機能や蓄積されている研究成果、北海道新聞社が持つ情報の分析、発信能力を融合させ、地域活性化につながる社会システムを構築することを目的とするものです。

関係者が見守る中、常本学長と菊池社長とが相互に署名し、基本合意書を交換しました。

本基本合意書の調印により、オホーツク地域に根ざした本学の研究成果の発信、地域の小中学生を対象とした実験教室の開催、留学生を交えた異文化交流セミナーの実施等、オホーツク地域の活性化につながるいっそうの貢献が期待されます。



基本合意書を交換し握手する菊池社長(左)と常本学長(右)

研究シーズ発表会「北見工業大学の研究最前線」の開催

(研究協力課)

去る11月17日(土)、同窓会関東支部総会の開催にあわせ、パーティスペース銀座ファゼンダにおいて、研究シーズ発表会「北見工業大学の研究最前線」を開催しました。本学の教育研究及び産学連携の状況を同窓会会員に説明し、自社及び関連企業に対して広く本学のPRをお願いすることを目的として開催しました。

当日は、関東支部会員のうち102名が出席し、常本学長からの開催にあたっての挨拶の後、大島理事から「最近の大学の教育研究動向」について、高橋地域共同研究センター長、鞘師専任教授及び有田専任准教授から「重点研究分野と産学連携活動」について、引き続き、山岸国際交流センター長から「バイ

オ研究と国際交流活動」について、本学発ベンチャー企業である(株)はるにれバイオ研究所との共同開発製品のPRを交え、それぞれ説明がありました。

最後に常本学長から「技術者、教育者(研究者)、管理職を経験して」と題して、採用時から現在までの本学との関わりについて、懐かしい写真や自作のイラストによる発表があり、大きな笑いの中、終始和やかな雰囲気うちに終了しました。

また、総会開始前の休憩時間を利用して、本学と(株)清月とで共同開発したクッキー「雪まりも」を販売しましたが、用意した40個が数分間で完売する盛況ぶりでした。

学長からの挨拶→



←説明に聴き入る同窓会会員

平成 19 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式挙行

(企画広報課)

平成 19 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が11月22日(木)午後5時から本学第1会議室において行われました。

本学永年勤務者表彰被表彰者に対し、学長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈があり

ました。

また、式終了後の記念撮影に引き続き祝賀会が開催され、午後6時和やかなうちに終了しました。

被表彰者は、次のとおりです。(50音順)

30 年勤務者

氏名	所属学科等
菊田 章	情報システム工学科
斉藤 順	総務課
船木敦子	研究協力課
前岡和雄	財務課

20 年勤務者

氏名	所属学科等
熊耳 浩	電気電子工学科
富士明良	機械システム工学科
松村昌典	機械システム工学科



常本学長(前列中央)と永年勤務者表彰被表彰者

健康チェック及び栄養士による栄養相談を実施

(学生支援課)

11月28日(水)に、学生が心身ともに健康な学生生活を送るための支援を目的に、本学と北見工業大学生生活協同組合の共催で「健康チェック及び栄養士による栄養相談」を実施しました。

この催しは、すでにおなじみとなり、会場のコミュニケーションアトリウムには、授業が終わった学生や、業務の合間に訪れた教職員で賑わい、各自が、身長、体重、体脂肪率、BMI値、肌水分量、骨重、基礎代謝量、アルコールパッチテスト、背筋・握力測定・上体起こし等の体力チェックを思い思いに行い、測定結果に一

喜一憂していました。

会場の一角に設けられた本学保健管理センター医師・看護師による健康相談、学外の管理栄養士による栄養相談ブースでは、前回、相談に訪れた学生から、その後の生活改善の様子が報告される場面も見られました。

今回、新たな企画として、電子レンジや炊飯器だけで手軽に作れる簡単レシピの紹介が行われ、参加者は、試食をしながら、講師の話に熱心に耳を傾け、普段おろそかになりがちな「栄養を考えながら食べる」ことの大切さについて目を見開かされた様子でした。



簡単レシピ紹介の様子



健康チェックの様子

10 月	11 月
1 日 後期授業開始 秋季入学式 企画運営会議	2 日 公開講座(～12月14日)
3 日 教育研究評議会、役員会 推薦入学者選抜実施委員会	7 日 企画運営会議
10 日 たばこのポイ捨て防止キャンペーン(～12日)	8 日 教育研究評議会、役員会
11 日 施設環境委員会 交通安全講習会	9 日 学長選考会議 入学者選抜委員会 推薦入学者選抜実施委員会
12 日 インターンシップ報告会	12 日 認証評価訪問調査(～13日)
17 日 学生委員会 消防訓練	14 日 企画運営会議、研究科委員会 ピア・サポーター連絡会議
18 日 北海道地区国立大学法人等施設担当職員研修会(～19日)	15 日 学生委員会
19 日 休講(大学祭準備) 就職ガイダンス	16 日 就職ガイダンス
20 日 父母懇談会(秋季) 大学祭(～21日)	19 日 企画運営会議
23 日 教務委員会	22 日 経営協議会、学長選考会議、役員会 永年勤務者表彰
24 日 冬道安全運転講習 ボランティア講習会	26 日 公開講座(～28日)
26 日 図書館委員会	28 日 健康チェック・栄養相談
	29 日 教務委員会